

# 第14回 三保連合同シンポジウム

内科系学会社会保険連合  
外科系学会社会保険委員会連合（担当）  
看護系学会等社会保険連合

総合テーマ 28年度診療報酬改定に期待するもの  
—三保連の連携と重点的な要求の工夫—  
日 時：平成27年9月17日（木）18:00～20:00  
会 場：御茶ノ水ソラシティ Room C

事前受付はございません。  
当日多数の方のご来場をお待ちしております。

問い合わせ先：

〒105-6108 東京都港区浜松町2丁目4番1号 世界貿易センタービル 8F  
一般社団法人日本外科学会内  
一般社団法人外科系学会社会保険委員会連合  
TEL:03-3459-1455 FAX:03-3459-1456 E-mail:[office@gaihoren.jp](mailto:office@gaihoren.jp)

# 第14回 三保連合同シンポジウム

内科系学会社会保険連合・外科系学会社会保険委員会連合・  
看護系学会等社会保険連合

総合テーマ 28年度診療報酬改定に期待するもの  
－三保連の連携と重点的な要求の工夫－

日時：平成27年9月17日（木）18:00～20:00

会場：御茶ノ水ソラシティ Room C

## 【シンポジウムのねらい】

様々な財源上の課題から、平成26年度診療報酬改定はどの領域にとっても大変厳しいものとなった。

また、平成27年介護報酬改定も極めて厳しい評価が下され、この流れが今後の平成28年改定、平成30年の医療・介護のダブル改定にも大きな影響を与えるであろうことは、容易に想像がつく。

今回の三保連シンポジウムにおいては、それぞれの領域の主たる要望を個別に取り上げるのみではなく、三保連すべての領域が、これからの厚労行政の変革に対して、どのように連携し発信していくか、について胸襟を開いて議論したい。

## 【プログラム】

### 1. 開会の挨拶

岩中 督（外保連会長 埼玉県立小児医療センター）

### 2. 講演

司会：岩中 督（外保連会長）

#### 1) 内保連の目指す診療報酬改定（20分）

工藤 翔二（内保連代表 公益財団法人結核予防会）

#### 2) 平成28年度診療報酬改定における看保連の要望（20分）

任 和子（看保連理事 看護技術検討委員会委員長 京都大学）

#### 3) 外保連手術試案の新しい評価軸（20分）

川瀬 弘一（外保連会長補佐 手術委員会委員長 聖マリアンナ医科大学小児外科）

### 3. 総合討論（50分）

司会：岩中 督（外保連会長）、井部 俊子（看保連代表理事）

討論者：工藤 翔二（内保連代表）、任 和子（看保連理事）、川瀬 弘一（外保連会長補佐）

### 4. 閉会の挨拶

瀬戸 泰之（外保連会長補佐 東京大学胃食道外科）

## 【抄録】

### 1. 内保連の目指す診療報酬改定（20分）

工藤 翔二（内保連代表 公益財団法人結核予防会）

内保連は、28年度改定に際して、「もの」から「技術」への転換をめざして、以下を提案した。1. 「特定内科診療」のⅡ群病院実績要件3への導入等、内科系高度急性期医療の評価。2. 特掲診療料「注射」に「処方料」の新設等、処方技術評価の改善。3. 「説明と同意」を評価し「指導管理料」の増設。4. 血液採取料（20点）の抜本的増点。5. 生体検査の評価改善。6. 医療連携と在宅医療の推進（地域連携診療計画管理料の対象疾患拡大、診療情報提供書料の対象を産業医へも拡大、処方せん料7剤以上規定の撤廃等）。7. チーム医療を推進し医師負担を軽減。8. 国民に役立つ医療技術の導入・強化と有効性を失った技術見直し（未収載技術119件、既収載技術286件、医学管理等52件、医薬品48件を領域別委員会で順位付け提案）。また、小児科領域に関する総合的提案、少子化対策の視点から2学会合同提案、病理診断に関わる保険診療体制の改善を、喫緊の課題として取り上げた。

### 2. 平成28年度診療報酬改定における看保連の要望（20分）

任 和子（看保連理事 看護技術検討委員会委員長 京都大学）

平成28年度診療報酬改定は、平成30年度診療報酬・介護報酬同時改定の前段階であり、地域包括ケアシステムの強化につながる改定になると予測した。そのため、地域包括ケアシステムの5つの構成要素の一つである「予防・医療・介護」の一体的な提供に貢献できる看護師の調整機能への評価や、在宅での疾病管理を支援するための看護師の指導管理に対する評価を取り上げ要望した。具体的には、医療技術提案書においてがん看護や糖尿病看護に関して未収載13項目・既収載7項目を提出し、要望書では訪問看護や退院調整に関連した25項目を要望した。

### 3. 外保連手術試案の新しい評価軸（20分）

川瀬 弘一（外保連会長補佐 手術委員会委員長 聖マリアンナ医科大学小児外科）

平成26年改定では、厚生労働省は「外保連試案第8.2版」を用いた手術料の見直しを行い、「第8版」と比較して人件費が50%以上増加した19術式が増点、50%以上減少した81術式が減点となった。手術委員会が、標準化に合わせて技術度を下げ、さらに実態調査により手術時間を修正した結果であり、実態に合わせてきた各学会に大きな不満が残った。

厳しい財政状況の中これからも同様の事象が続くことが予想され、外科医の技術料を担保していくために、これまでの評価軸（人件費、技術度、手術時間、医材料費のコスト）以外の新しい評価軸を手術試案に取り入れるよう検討してきた。平成28年度改定に向けて、個別の手術に $+\alpha$ となる評価軸として下記5項目を発信することとした。

1. 手術を行う benefit のスコア化の策定
2. 医療紛争リスク
3. 手術中の緊急度
4. 2つの命を扱う手術
5. 費用対効果

## 会場案内

会場：御茶ノ水ソラシティ Room C

交通のご案内:

(御茶ノ水駅 (JR中央・総武線) 徒歩1分、新御茶ノ水駅 (東京メトロ丸の内線)

B2出口直結、御茶ノ水駅 (東京メトロ丸の内線) 徒歩4分、

小川町駅 (都営地下鉄新宿線) 徒歩6分))

